長洲町立長洲小学校　校長便り　№.１５２

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年2月1日(木)

雑感

時間が過ぎていくのが早い。年のせいだとは言いたくないのだが、時間に追われているような気がして情けなく思う。時間に追われると、私の場合思考が停止しているか停滞していることが多い。併せて、課題や問題に気付くアンテナの感度も低くなっていることが多く、そんな時には気持ちを引き締めなければならない。そのために何をするか？　こんな時には、更に仕事に打ち込む!?　ってことはない。私の場合は思い切って別の事に集中するようにしている。最も手っ取り早いのは趣味であろう。私の場合広く浅くの趣味が多く、何をしようかと悩む時間も楽しいものだ。そして、趣味に没頭していると、ふと仕事の課題解決の糸口が浮かんでくることもある。人間の思考なんて案外簡単なものなのかもしれない。

しかし、私の同級生はこんなことを言っていた。彼はゴルフのインストラクターの資格を持っているが、「仕事上の悩みの解消は仕事に打ち込むに限る」と言うのだ。よくよく聞いてみると、彼はゴルフが大好きで資格を取ったらしく、「打ちっ放しに行ってとにかく飛ばす！」と気分が晴れるそうだ。私の場合、仕事に打ち込むとどうなるだろう…、そう考えると少々恐ろしい気もする。

今後、私の年齢からすると時間の速度的な感覚は早くなっていくだろう。無駄な時間を過ごさず、有意義な時間を手に入れるためにも仕事を複線化し、メリハリのあるワークバランスを身に付けたいものだ。

私の中学時代#①入学～実力テスト

私が中学校に入学したのは、昭和５４年です。真新しい学生服に白のショルダーバッグで、熊本市立楠中学校に入学しました。当時の楠中学校はマンモス校の一つで、１年生は１３組までありました。私は１年６組です。現在のプレハブ校舎とは比べられないほどの簡単な造りでした。私達の世代は結構プレハブ校舎で過ごした時間が長かったようです。新校舎ができるというわけではなかったので、今でも楠中学校は当時のまま残っています。今でも近くを通ると色々なことを思い出します。

入学式の次の日、実力テストが実施され、１２歳の私は打ちのめされてしまいます。小学校と違って、点数による客観的な情報提供があるからです。自分の順位を見た時、あまりに低すぎて正直驚きました。小学校の担任の先生が話していてくれてことが、やはり本当だったのだと改めて思った瞬間でした。「これじゃいかん！」と思って、少し勉強したような気がします。危機感を持つことが重要かもしれませんね、３年後には「受験」を控えているわけですから、時間を無駄にしてはいられません。

このように、自分でやる気を起こし、自分をコントロールしていくことを勉強するのが中学校といえるでしょう。部活などにも参加すれば、生徒達は否応なく時間と自分をコントロールしていけるようになります。というより、そうしなければ自分の夢を狭めてしまうことになるのです。危機感をもつ、これがキーワードです。

とは言え、中学校時代、私にとっては楽しい３年間でした。中１ギャップなんて言葉がありますが、私はそんなもの感じていなかったようです。確かに勉強は難しくなり、量も増えました。それにも増して友達との繋がりが深くなり、金で買えない貴重なものを沢山手に入れた中学時代でした。

シリーズ「自分を語る」#152

天草での発表が終わり、令和元年12月初めだったでしょうか、あのニュースが報道されました。

「中国の武漢市でコロナウイルス感染が確認された。」

この後、数か月の間にパンデミックと呼ばれる爆発的な感染が起こることなど誰も予想しなかったでしょう。日本でも年明けの1月半ばに感染が報告され、その後あっという間に全国に広がり、緊急事態宣言に繋がっていきました。

話が飛びますが、令和元年末、教頭職は大変であったにも拘らず、何だかんだ公私共に充実しており、このニュースも「へ～、そうなんだ。怖いなぁ…」くらいにしか思いませんでした。しかも、天草での実践発表のご褒美的な出張として、文部科学省主催の地域学校協働活動実践発表会に参加させて頂くこととなり、東京行の準備を着々と進めていた頃です。東京で働く教え子達と連絡を取り、出張そっちのけで一緒に食事の計画に力を入れていた時間でもあります。まだ、コロナ禍等どこ吹く風の私でした。

日本での感染が確認される1カ月ほど前、当然、行動の制限もされていませんし、マスクの着用もありませんでしたので、意気揚々と東京へ。久し振りに教え子達と酒を酌み交わすことができるという喜びで、足取りも軽かったことを思い出します。

月曜日が業務だったこともあり、日曜日の朝から移動することにしました。東京行の始発便に乗り込み、羽田空港着は午前9時頃だったと思います。ここから行きたかった場所を無計画に巡ります。

午前中は上野界隈をブラブラ。印象に残っているのは国立科学博物館です。当時、企画展として世界中で発見されたミイラの展示があっていました。後にこの企画展は熊本でも開催されることになる展覧会であり、無理して見ることもなかったかなという気がしています。何故かというと、とにかく人が多いのです。人が流れるという表現が正にこれでした。私の意思で移動することができないのです。分かりますでしょうか。一旦中に入ると、特に展示されているミイラの周辺では「押しくら饅頭」のような感じで流されていくのです。結果、流れていく導線が悪いと見えないまま過ぎていくということが何度もありました。ミイラの展示をゆっくりと説明も含めて見ることが出来ない上、そういうスピリチュアルな世界に浸ることもできず、出口にたどり着いた時は新鮮な空気を吸うために深呼吸したことを思い出します。その後、上野公園の中にある多くの施設を片っ端から巡りました。ここでの1日は一言で言えば「人に酔う一日」でした。

歩きっ放しの1日目も終わりに近づいてきました。東京で働く3人の教え子達と待ち合わせです。教え子達に場所は任せていましたので指定された場所へ移動します。「庶民的なお店」を希望した結果、待ち合わせ場所は「新橋ガード下」でした。私にとってはワクワクする場所です。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）